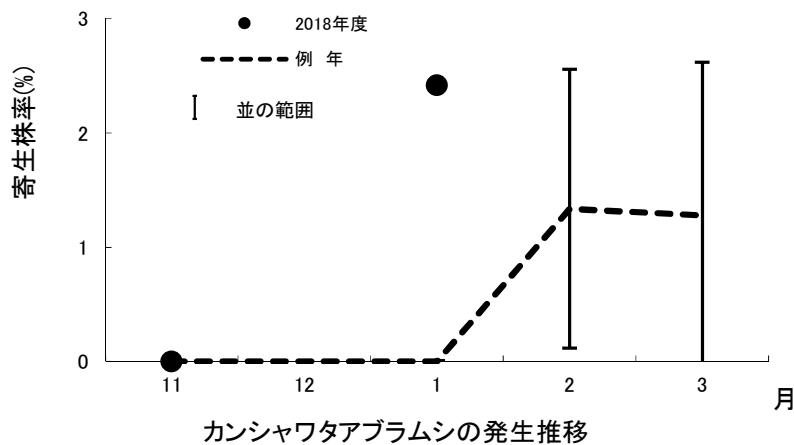


平成 31 年度

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① カンシャワタアブラムシ		
1月の発生量（現況）	多		
2月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生株率の例年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



- 伊計島と宮城島の一部ほ場で多発。
- 宮城島では、分散能力の高い有翅虫も発生していた。
- 天敵のマエウスジロマダラメイガの発生は未確認。



←マエウスジロマダラメイガの幼虫



有翅虫と幼虫→

防除のポイント

- 大発生すると吸汁害及びすす病により、さとうきびの生育が遅延するため、早期防除が重要である。
- 特に新植夏植ほ場については、2~3月の薬剤防除を徹底する。
- 薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。
- 収穫予定のさとうきびほ場や近隣作物へ薬剤がドリフト(飛散)しないように注意する。
- 捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。
- 多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島																																										
病害虫名	② メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ)																																												
1月の発生量 (現況)	多																																												
2月の増減傾向	↗																																												
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。																																												
発生量の根拠 (調査結果)	<table border="1"> <caption>Core Rot Incidence (%) Data</caption> <thead> <tr> <th>Month</th> <th>2018年度 (●)</th> <th>平年 (○)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9</td><td>~1.5</td><td>~0.5</td></tr> <tr><td>10</td><td>~1.0</td><td>~0.5</td></tr> <tr><td>11</td><td>~2.0</td><td>~1.5</td></tr> <tr><td>12</td><td>~7.0</td><td>~5.5</td></tr> <tr><td>1</td><td>~13.0</td><td>~5.0</td></tr> <tr><td>2</td><td>-</td><td>~6.5</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>Larva Incidence Data (頭/人/5分)</caption> <thead> <tr> <th>Month</th> <th>2018年度 (●)</th> <th>例年 (○)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9</td><td>~0.35</td><td>~0.1</td></tr> <tr><td>10</td><td>~0.1</td><td>~0.2</td></tr> <tr><td>11</td><td>~0.5</td><td>~0.4</td></tr> <tr><td>12</td><td>~0.55</td><td>~0.55</td></tr> <tr><td>1</td><td>~0.38</td><td>~0.45</td></tr> <tr><td>2</td><td>-</td><td>~0.3</td></tr> </tbody> </table>			Month	2018年度 (●)	平年 (○)	9	~1.5	~0.5	10	~1.0	~0.5	11	~2.0	~1.5	12	~7.0	~5.5	1	~13.0	~5.0	2	-	~6.5	Month	2018年度 (●)	例年 (○)	9	~0.35	~0.1	10	~0.1	~0.2	11	~0.5	~0.4	12	~0.55	~0.55	1	~0.38	~0.45	2	-	~0.3
Month	2018年度 (●)	平年 (○)																																											
9	~1.5	~0.5																																											
10	~1.0	~0.5																																											
11	~2.0	~1.5																																											
12	~7.0	~5.5																																											
1	~13.0	~5.0																																											
2	-	~6.5																																											
Month	2018年度 (●)	例年 (○)																																											
9	~0.35	~0.1																																											
10	~0.1	~0.2																																											
11	~0.5	~0.4																																											
12	~0.55	~0.55																																											
1	~0.38	~0.45																																											
2	-	~0.3																																											
防除のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。 ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。 ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。 ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。 ・ 培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。 																																												

作物	さとうきび	地域	沖縄群島																					
病害虫名	③ メイチュウ類(イネヨトウ)																							
1月の発生量 (現況)	多																							
2月の増減傾向	↗																							
増減傾向の根拠	芯枯茎率の平年の発生推移から、1月より発生量は増加すると考えられる。																							
発生量の根拠 (調査結果)																								
<p>メイチュウ類(芯枯茎)の発生推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2018年度 (%)</th> <th>平年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9</td><td>~1</td><td>~0.5</td></tr> <tr><td>10</td><td>~1</td><td>~0.5</td></tr> <tr><td>11</td><td>~2</td><td>~1</td></tr> <tr><td>12</td><td>~7</td><td>~3</td></tr> <tr><td>1</td><td>~13</td><td>~5</td></tr> <tr><td>2</td><td>-</td><td>~6.5</td></tr> </tbody> </table>			月	2018年度 (%)	平年 (%)	9	~1	~0.5	10	~1	~0.5	11	~2	~1	12	~7	~3	1	~13	~5	2	-	~6.5	
月	2018年度 (%)	平年 (%)																						
9	~1	~0.5																						
10	~1	~0.5																						
11	~2	~1																						
12	~7	~3																						
1	~13	~5																						
2	-	~6.5																						
<p>イネヨトウ(幼虫)の発生推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2018年度 (頭/人/5分)</th> <th>例年 (頭/人/5分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9</td><td>0.01</td><td>0.05</td></tr> <tr><td>10</td><td>0.01</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>11</td><td>0.01</td><td>0.2</td></tr> <tr><td>12</td><td>0.02</td><td>0.3</td></tr> <tr><td>1</td><td>0.2</td><td>0.3</td></tr> <tr><td>2</td><td>-</td><td>0.5</td></tr> </tbody> </table>				月	2018年度 (頭/人/5分)	例年 (頭/人/5分)	9	0.01	0.05	10	0.01	0.1	11	0.01	0.2	12	0.02	0.3	1	0.2	0.3	2	-	0.5
月	2018年度 (頭/人/5分)	例年 (頭/人/5分)																						
9	0.01	0.05																						
10	0.01	0.1																						
11	0.01	0.2																						
12	0.02	0.3																						
1	0.2	0.3																						
2	-	0.5																						
<ul style="list-style-type: none"> 茎内で発見したメイチュウ類の35%がイネヨトウであった。 本島南部のフェロモントラップによる成虫誘殺虫数は0.14 (頭/日)で平年並であった。 防除員の報告によると、久米島でメイチュウ類が多発生。 																								
<h4>防除のポイント</h4> <ul style="list-style-type: none"> 卵は塊で産み付けられ、ふ化した幼虫は葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。 ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。 培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。 																								